

# 阿州堂ノ浦の釣漁師

「安永三年午六月廿三日大風波二付ゑん崎二而阿州堂野浦山屋清太兵衛舟破船二付船頭水主口書ひかへ」（塩崎家文書520）

阿州堂ノ浦の釣漁師は、カンコという小船に乗り、テグスを釣糸に用いた一本釣で全国展開したことで大変有名です。

この古文書は、安永3年(1774)6月23日に堂ノ浦山屋清太兵衛の生魚生ケ船（胴の間に穴をあけ生簀にした船）が強風に煽られ、津久野浦・小浦境の「ゑん崎」という荒磯で「くだくだ」に破船した事件の処理記録です。

清太兵衛は商人（「商主」と言います。）ですが、出資した漁師たちの乗ったカンコ14艘を引き連れ、津久野浦を基地として（「据浦」と言います。）稼ぎに来ていたのです。漁師の乗るカンコは早めに陸上げして避難しており無事でしたが、清太兵衛の船には生簀に活魚があったらしく、魚を死なせるのを惜しんだために避難せず、被災したものだと思われます。

清太兵衛によると、彼らは既に80～90年以前から、毎年春から夏にかけてこの地に入漁・据浦していたとのことでした。